

被災の医師ら講演

北 区

災害医療援助公開講座

北 区

田俊郎さん(58)は、4

災害時の医療について考える県立大大学院

「災害医療援助特論」

の公開講座が7日、北

区の岡山国際交流セン

ターであった。東日本

大震災で被災した岩手

県大槌町の医師らが、

震災直後の医療支援の

状況や医療機関の連携

の必要性について講演

した。参加した学生ら

約90人が熱心に聴き入

った。

大槌町の開業医、植

階建ての自宅兼診療所

で被災。津波が押し寄

せる写真をスクリーン

に映し出しながら、あ

っという間に町がのみ

込まれた状況を説明し

た。

避難所で簡易の救護

所を開き、「設備の整

った病院もあったの

で、ここで私にできる

ことだけをしよう」と

診察した。他の医療機



参加者の質問に答える
植田さん
—北区の岡山国際交流
センターで

たといい、「津波でカ

ルテなどの情報を失っ

た。医療情報ネットワ

ークの構築が必要だ」

と述べた。植田さんは

「被災した医療関係者

は地元を離れず、寄り

添うことが大切だ」と

話した。

その他、国際医療支

援団体「AMDA」の

職員が復興支援に携わ

った状況を説明した

り、被災地で活動した

鍼灸師はり灸師が体験を語る

などした。【石井尚】